

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792300014		
法人名	医療法人 正生会		
事業所名	グループホーム郷の家 1階		
所在地	福島県南会津郡下郷町大字下タ原1313-1		
自己評価作成日	平成23年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20
訪問調査日	平成23年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・一人ひとりのその時の思い、家族の思いを大切にして支援している。 ・一人ひとりの話に耳を傾け、楽しく生活できるよう支援している。 ・その人その人に合わせた対応、思いやりを大切にして支援している。 ・ひとりひとりの思いによりそった支援をしている。 ・いつも優しく、いつも笑顔で入居者に接している。 ・一人一人の思いに耳を傾け、いつも笑顔で支援している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 職員は意欲的に日常業務に取り組んでおり、介護福祉士や介護支援専門員等の資格取得につながっている。 2. 法人である医療機関から24時間協力体制があり、利用者の体調急変等に診察や相談が可能である。そのため、利用者・家族、介護職員の安心感につながっている。 3. 行政や地域包括支援センター等からの入居申込や短期入所の受入要請があり対応する等、日頃から連絡を取り合い、協力関係が築かれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員全員で共有できるよう見やすいところに掲示し、朝礼時に唱和している。職員会議の際職員全体で具体的なケア、今月の目標を話し合い、意見の統一を図っている。	地域密着型サービスを念頭に置いて作り上げた理念を毎朝礼時に唱和しながら共有し、日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りに民生委員のボランティア、敬老会に踊りのボランティアを受け入れている。買い物は町内のスーパーを利用し、直売所より野菜を購入し地産地消に努めている。	地域の文化祭、盆踊り、小学校の運動会等の行事を見学したり、地域の介護施設の行事に出かける等、地域交流を図っている。また事業所の夏祭りや敬老会には地域のボランティア訪問もある他に、地域住民や町議員の事業所見学等も受入っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターからの依頼で自宅で介護している方の介護者の集いの受け入れ、見学等の受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を開催しており、ホームの近況や予定、外部評価について報告している。運営推進委員より出されて意見、助言に関して職員全体で話し合いを行い、サービスに反映させている。	運営推進会議は定期開催されている。事業所からの活動状況報告、外部評価報告等に対する意見交換が行なわれている。事業所の感染症の勉強会時期を早める事など、出された意見が運営に反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場より入居申込者家族の見学の依頼、生活保護の申請等行い、協力を得ている。	日頃から行政担当者とは、利用者数等の状況報告や介護保険・生活保護の申請相談等を行っており、連携が取られている。また、行政担当者が運営推進会議に出席し、情報提供や意見等を出している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施し、職員の共有認識を図っている。	職員は事業所内外の研修で、身体拘束の内容と弊害を認識しており、拘束の無いケアに努めている。不穏時には見守り、寄り添いで行動を共にする等の対応が取られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング時に高齢者虐待防止法に関する理解の浸透、遵守に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会に参加し、研修の内容は会議で報告、研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。現在、該当者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、利用料金(介護報酬の改定や改正等により、利用料が増加する場合の説明)、退居を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族より電話、面会時、運営推進会議に出席の際、出された意見、要望等にはミーティング時に話し合い、反映させている。	利用者の意見は日々の関わりの中から、家族等の意見は、面会時や推進会議出席時に把握している。また、遠方の家族にはケアプラン見直し時などに、電話で聞いている。行事内容の要望や居室の清掃などの意見が出され、運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を月2回行い、意見・要望を聞くと共に話し合いを行っている。職員の意見を把握できるように努めている。	月2回実施されるミーティングや職員で自主的に運営されている各種委員会(事故防止・身体拘束委員会等の6つの委員会)で意見を聞き運営に反映されている。また、年に2回理事長が全職員の個別面談を実施し、意見等を聞き取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康診断を年2回行っている。運営者は、職員の勤務状況、実績を把握している。資格取得に向けて、支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に職員が受講できるように研修会開催の案内を回覧している。研修の内容は会議で報告、研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加した際に、他ホーム職員と交流している。他ホームの夏祭りに参加している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は、必ず本人に会って、心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況等、これまでの経緯についてゆっくり話を聴いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント、情報、本人の様子を見極め、今、必要としているサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある不安、喜び等を知ることにも努め、暮らしの中で分かち合い、共に支えあえる関係作りに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の様子を家族に伝え、職員は家族の思いに寄り添い、本人を支えていくための協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来て頂いたり、電話での連絡を取り持つ等関係を継続できるようにしている。また、家族の支援で自宅に外泊、外出行っている。	馴染みの美容院やスーパーでの買い物等、利用者がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が継続出来るよう支援している。家族の協力で墓参りなども行なわれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士で過ごせる場面作りをする等、入居者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となって支援している。心身の状態や気分、感情で日々時々変化するときもあるので注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の相談員等に、これまでの支援内容、注意が必要な点について情報提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いを日々の行動や表情から汲み取り把握に努めている。出来る限り本人の思うようにして頂くように努力している。	日常生活の会話の中や行動、仕草、表情、雰囲気などから思いや意向を把握している。それらの内容と毎日の生活の様子は個別記録に留め、ケアプラン等へ反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に自宅に訪問して、本人、家族からどんな生活をしていたか聴いている。また、家族の面会の際、話を伺い生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのできること、出来ないことを把握し、生活リズムを理解するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からは日々のかかわりの中で、家族からは面会時、または電話で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。職員全体でモニタリング、カンファレンスを行っている。	利用者・家族の思い、利用者の身体状況の変化等を反映させて介護計画を見直ししている。再アセスメントやモニタリングの内容等も計画に反映されているが、計画に基づく支援記録の仕方に工夫が必要である。	利用者ごとの介護計画の支援内容を個別記録に適切に記録し、モニタリング等に役立てて欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づき、入居者の状態変化は、個々の記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。個人記録を基にケアプランの見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の意向、その時の状況から必要なサービスを提供できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員長、地域包括支援センター職員に出席して頂き、意見交換する機会を持っている。ボランティアの受け入れ、避難訓練時、消防の協力がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望する医療機関を受診できるよう家族と協力し、通院介助を行っている。また、かかりつけ医には、必要時受診、相談できるようにしている。	かかりつけ医として、法人医療機関で受診する利用者が多く、職員が通院に同行している。利用者の身体状況に変化があった時には、家族へ電話で受診結果を伝えている。かかりつけ医は夜間・早朝も対応や相談が可能な体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な表情の変化を見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。変化等気づいたことがあれば隣接する医院に報告し、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、職員が見舞うようにしている。また、家族、医師、病院のソーシャルワーカーと話す機会を持ち、グループホームで対応可能な段階でなるべく早く退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化時には、その都度家族に状態を報告し、家族の意向を聞き、主治医と話し合いをしている。その内容を職員間で共有している。	事業所の重度化・看取り指針が作成されており、必要に応じて家族へ説明することとしている。重度化してきた時には利用者・家族が主治医と話し合い、関係者は方針を共有して支援につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時のマニュアルを作成している。勉強会を実施し、全ての職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、消防署、病院の協力を得て、年2回入居者と夜間想定避難訓練を実施している。避難経路の確認、消火器の使い方、通報訓練を行っている。避難経路確保の為、除雪を行っている。	年に2回、消防署にも立ち会ってもらい、夜間想定避難訓練を実施している。近隣の協力体制は構築されておらず、備蓄も準備されていない。	昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけられるよう、様々な想定避難訓練を数多く実施して欲しい。また、早急に地域協力体制を構築し、備蓄も準備されたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な際は、本人の気持ちを大切に考えて、さりげないケアを心がけ、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。	職員は利用者一人ひとりを尊重し、プライバシーを損ねないよう言葉かけや対応等を行っている。事業所内でプライバシーの保護に関する研修会を行っており、職員は理解して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者に合わせて声をかけ、些細なことでも本人が決める場面を作っている。(飲みたいもの、食べたいもの等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、それに合わせた対応を心がけている。その日のコンディション、様子を見ながら休息場面を作る等個別対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望時に近所の理容所に行き、散髪、毛染め行っている。その他の方も美容師の来訪にて希望時に行っている。また、起床時や衣類の汚れがあった際、さりげなく整容の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝うよと入居者より話があり、調理や後片付けと一緒にしている。同じテーブルを囲んで食事をしている。	献立委員会で利用者の好みを取り入れた献立を立てており、食事の準備・配膳・食事・後片付け等は利用者と一緒にしている。また、出前を取ったり外食の日を設ける等食事が楽しくなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を毎食記録している。本人の好きなものや食べやすいものを出すようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを行い、力に応じて支援している。就寝前は義歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間をみて声かけを行い失敗のないよう支援している。リハビリパンツ、パット、布パンツの使用を本人に合わせて検討している。	排泄チェックをしながら一人ひとりの排泄パターンを把握している。排泄パターンや排泄サインを見ながらトイレに誘導し自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、毎日のラジオ体操と水分補給を行い便秘対策に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に応じて支援している。時間帯も希望時に状況を見ながら対応している。	利用者一人ひとりの状態(好みや習慣)に合わせて入浴支援をしている。拒否する場合は声掛けのタイミング等を変えて取り組んでいる。ゆず湯等を取り入れ季節感が感じられるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活のペースで午睡したり、心地よく眠りに付けるよう日中の活動に配慮している。夜間、眠れないときにはその方の思いに配慮して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を全職員共有できるようにしている。飲み忘れのないよう、服薬確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの食堂に出掛け、外食をしている。家族と協力しながら、外出の支援をしている。	食材の買い出しや事業所周辺の散歩等外出支援を行っている。町の文化祭や近隣の小学校の運動会等に職員と出かけたり、家族の協力を得て墓参り、温泉、外食等の外出支援も行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持っていることで安心感を得ている。手元に財布を持たせ、そのお金を利用して、買い物を行う際、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、家族に電話をしたり、手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶わんを洗う音、包丁の音、ご飯の炊ける匂い、ユズ湯、ひしまき作り、もちつきなど五感や季節感を意識的に取り入れる工夫をしている。	利用者と作った季節の飾り付けを共有空間に飾り、季節感が感じられるよう工夫している。ソファ、椅子、畳の小上がりにあるコタツ等利用者が思い思いの場所でゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前と少し離れた所にソファを置き、気の合う人同士でゆったりと過ごせるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの入居者の好みや馴染みの物等を生活スタイルに合わせて、カーペット、こたつ、テレビ、位牌、写真等自宅より持ってきて頂いている。	利用者は使い慣れた椅子やタンス、位牌等を持ち込んだり家族の写真などを飾っており、利用者にとって過ごしやすい部屋となっている。利用者に合わせてベッド又は布団の選択ができ、布団の利用者にはユニット畳で対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの分かる力を見極め、必要な目印を付ける等、環境整備に努めている。		